

9/25 列王記第一 11 章 1-13 節「心が主から離れて」

小池 宏明 牧師

ダビデ王の後継者として立てられたソロモン王は、イスラエル統一王国の王として約 40 年間王位にあった。しかし、彼の晩年は、主なる神様から心が離れてしまった。ソロモンは、律法に違反して多くの異国人の女性を愛して離れなかったからだ。3、4 節「彼には、七百人の王妃としての妻と、三百人の側女がいた。その妻たちが彼の心を転じた。ソロモンが年をとったとき、その妻たちが彼の心をほかの神々の方へ向けた・・・」

*わずかな妥協が大きな罪へ

ついに、主なる神様はソロモンにさばきの宣告をされた。11-12 節「そのため、**【主】**はソロモンに言われた。「あなたがこのようにふるまい、わたしが命じたわたしの契約と掟を守らなかったので、わたしは王国をあなたから引き裂いて、あなたの家来に与える。しかし、あなたの父ダビデに免じて、あなたが生きている間はそうしない。あなたの子の手から、それを引き裂く。」ソロモン王は、自ら、主なる神様への信仰を捨てて、離れようとしたわけではないだろう。王位に就いた時から神殿の建設に取り掛かり、奉獻の時には主なる神様の栄光に触れた。主なる神様をご臨在なさる神殿を忘れることはなかっただろう。しかし、主なる神様と他の神々（偶像）とを同列に扱う多神教に陥ってしまった。それは、小さな妥協が、大きな妥協が生んで、ついには大きな罪に陥ってしまったからだ。政略結婚とは言え、他国の女性たちと関係を持って、少しずつ、他国の神々を持ち込むことを許してしまい、ついに後戻りできないほどになってしまったのだ。

*私たちへの教訓

私たちには、主のご命令を完全に守り抜くことは難しい、罪深い性質が残っている。しかし、越えてはならない一線がある。決して妥協してはならない部分がある。当時の世界では、一夫多妻が認められ、各国の王様は近隣の国々とトラブルを避けるために政略結婚が常識のように行われていた。しかし、主なる神様の御ことばをしっかりと覚えて、主に従って生きることは、何があっても、軽く見てはならないことなのだ。日々、主の御ことばを聴き続けることで、善悪の判断基準が身に付いて、常に道を外しそうになる自分自身の弱さや愚かさを修正することができるようになっていく。私たちもそのように、主の訓練を軽んじることなく、日々、御ことばに聴き続ける生き方を身に付けよう。